

## 区内医療機関における肺がんの見落としについて

杉並区内の医療機関である社会医療法人河北医療財団河北健診クリニック（高円寺南4-27-12）が実施した胸部レントゲン検査において、肺がんの「見落とし」があり、平成30年6月、40歳代女性が残念ながらお亡くなりになりました。

### 1 経緯

当該者は河北健診クリニックにおいて、これまでに複数回、成人健診等を受診していましたが、平成26年、平成27年に実施した職場の成人健診での胸部レントゲン画像に、腫瘤影があるにもかかわらず「異常なし」と判定され、平成30年に実施した区肺がん検診の胸部レントゲン検査においても「異常なし」と判定されました。

平成30年4月に当該者が呼吸困難等で他院に救急搬送された際、胸部レントゲンと胸部単純CTを撮影したところ、結節影を指摘されました。そのため、当該者が河北総合病院呼吸器内科を受診しましたが、その際に過去の「見落とし」が判明しました。5月に河北総合病院に救急搬送され、脳梗塞、トルソー症候群との診断を受け、その後、転院して肺悪性腫瘍と診断されて治療を続けましたが、平成30年6月にご逝去されました。

### 2 その後の対応

河北医療財団では「見落とし」判明後、直ちに院内検証委員会を設置し、原因の究明と再発防止策の検討を行いました。

杉並区は本事案の報告を受け、区肺がん検診の受託者である杉並区医師会とともに、河北医療財団に対し、河北健診クリニックで実施した区肺がん検診について胸部レントゲン画像の再読影を要請しました。その結果、対象となる平成26年9月以降の9,424件の内、44件が「要精密検査」となりました。要精密検査となった方へは、河北健診クリニックから精密検査の受診勧奨を順次開始しています。

なお、区肺がん検診は、杉並区が杉並区医師会に業務委託し、河北健診クリニックは検診実施医療機関として検診を実施しています。

### 3 その他

本件の詳細について、別紙のとおり記者会見を実施します。

## 区長コメント

区民の健康を守るべき区肺がん検診においてあってはならない事故が発生し、大変無念で言葉ありません。お亡くなりになりました方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心よりお詫び申し上げます。

また、区民の皆様にも大きな不安を与える結果となりましたことを深くお詫びするとともに、要精密検査となった方に対しましても杉並区医師会及び河北医療財団とともに誠意を持って適切に対応してまいります。今後速やかに外部有識者を含む検証組織を立ち上げ、健診チェック体制等について検証の上、区民の皆様が安心して受診できる健診体制を築いてまいります。

### 【問い合わせ先】

杉並保健所健康推進課：03-3312-2111 内線4528

## 「区内医療機関における肺がんの見落としについて」

# 記者会見開催のご案内

標記の件について、社会医療法人河北医療財団、杉並区医師会、杉並区が下記のとおり記者会見を開催します。

- 【日時】 平成30年7月17日（火） 午後2時から
- 【場所】 河北総合病院西館地下講堂（杉並区阿佐谷北1-7-3）
- 【出席者】 社会医療法人河北医療財団  
河北医療財団理事長 河北 博文  
河北総合病院院長 杉村 洋一  
河北健診クリニック施設長 岡田 牧  
杉並区医師会副会長 稲葉 貴子  
杉並区保健福祉部長 有坂 幹朗
- 【内容】 状況報告  
質疑応答

### 【案内図】



### 【問い合わせ先】

総務部広報課：3312-2111 内線1502

河北総合病院：3339-5724 担当：山口（広報課）